

Economic Trends

発表日: 2020 年 3 月 27 日 (金)

新型コロナ下の対中貿易の動向

～なぜ、日本の2月輸出は殆ど減らなかったのか？～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 星野 卓也 (Tel: 03-5221-4547)

(要旨)

- 2月の日本の対中輸入は前年比▲47.1%の急減。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中国の生産活動がストップしたことで、日本の対中輸入も急激な減少となった。
- 一方で、対中輸出は前年比▲0.4%の減少にとどまった。世界全体向けの輸出でみても同▲1.0%に踏みとどまっている。
- 品目別の対中輸出のデータを用い、平均・標準偏差を用いて極端な動きをとった品目を抽出し、その動向をみたところ、不織布マスクを含む「繊維製品のその他の製品」が前年比 1218.4%の増加（＝約 13 倍）。そのほか、消毒剤を含む項目は前年比 +2447.9%（＝約 25 倍）。集積回路も前年比 +3649.2%（＝約 37 倍）に増加。中国の生産活動停滞に伴い、感染防止のための製品や不足する工場部品などを日本からの調達でまかなう動きが強まったものと推定される。
- 3月上旬の貿易統計では、輸出が前年比▲8.9%の減少、輸入は同 +7.6%の増加となっている。足元、中国が生産活動を再開する一方、国内では、欧米等の需要減に端を発する自動車工場の生産停止の動きが生じている。コロナショックは、2月は「中国の供給ショック」だったが、3月以降はグローバルレベルの需要側のショックへ変質する可能性が高まっている。

○なぜ、日本の2月輸出はほとんど減らなかったのか？

本日、2月貿易統計の確報値が公表。2月の対中輸入は前年比▲47.1%の急減。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中国の生産活動がストップしたことで、日本の対中輸入も急激な減少となった。一方で、対中輸出は前年比▲0.4%の減少にとどまった。世界全体向けの輸出でみても同▲1.0%に踏みとどまっている。

○マスクや消毒剤、機械製品の対中部品輸出が急増

当初は、中国の生産活動停滞に伴い、サプライチェーンの寸断などから日本の輸出も悪化するのではないかと懸念が強まっていたが、むしろ2月の日本の輸出は底堅かった。この原因を探るため、本日公表された品目、輸出先別のデータを用い、対中輸出の分析を行った。

行ったことは、2月の対中輸出について、①通常とは異なる増え方、減り方をした品目を抽出、②その品目の輸出額の前年差が大きい順にデータの抽出を行った。①は前年同月差の平均から3標準偏差以上乖離した品目とした。平均・標準偏差の算出には2015～2019年の各品目に関する前年同月差の月次データを用いている。結果は以下である。

資料1. 2月対中輸出・極端な増加となった品目（額、前年差の単位は千円、前年差の上位15品目）

HSコード	品目名	分類	額	前年差	前年比
630790000	その他のもの（ドレスパターンを含むものと	紡織用繊維のその他の製品	5,138,559	4,748,809	1218.4%
840734000	ピストン式火花点火内燃機関（往復動機関及	原子炉、ボイラー及び機械	10,223,011	2,209,532	27.6%
320890900	ペイント及びワニス（エナメル及びラッカー	なめしエキス、染色エキス	2,983,942	1,860,759	165.7%
370790000	写真用の化学調製品（ワニス、膠着剤、接着	写真用又は映画用の材料	5,586,798	1,691,494	43.4%
854890000	一次電池又は蓄電池のくず、使用済みの一次	電気機器及びその部分品並	2,486,510	1,381,150	125.0%
902790100	物理分析用又は化学分析用の機器（例えば、	光学機器、写真用機器、映	3,780,079	1,269,861	50.6%
900290000	レンズ、プリズム、鏡その他の光学用品（材	光学機器、写真用機器、映	1,284,732	988,508	333.7%
854140990	ダイオード、トランジスターその他これらに	電気機器及びその部分品並	2,118,571	977,484	85.7%
380894000	殺虫剤、殺鼠剤、殺菌剤、除草剤、発芽抑制	各種の化学工業生産品	1,005,395	965,936	2447.9%
854232911	集積回路	電気機器及びその部分品並	982,093	955,898	3649.2%
852692000	レーダー、航行用無線機器及び無線遠隔制御	電気機器及びその部分品並	748,883	636,357	565.5%
720712199	鉄又は非合金鋼の半製品	鉄鋼	420,275	397,445	1740.9%
701952000	ガラス繊維（グラスウールを含む。）及びそ	ガラス及びその製品	520,871	355,876	215.7%
854160100	ダイオード、トランジスターその他これらに	電気機器及びその部分品並	676,967	338,428	100.0%
711029000	白金（加工していないもの、一次製品及び粉状	天然又は養殖の真珠、貴石	346,339	336,383	3378.7%

（注）“極端な増加・減少”＝2月輸出額の前年差における平均から3標準偏差以上の乖離、とした。平均、標準偏差の計算には品目別、輸入先別、2015年から2019年の月次データを利用。品目、分類欄は紙幅の関係で一部省略。詳細は財務省「貿易統計」のHSコードなどを参照。

（出所）財務省「貿易統計」より第一生命経済研究所が作成。

資料2. 2月対中輸出・極端な減少となった品目（額、前年差の単位は千円、前年差の上位15品目）

HSコード	品目名	分類	額	前年差	前年比
842952129	ブルドーザー、アングルドーザー、地ならし	原子炉、ボイラー及び機械	805,214	-2,613,848	-76.4%
846390000	その他の加工機械（金属又はサーメットの加	原子炉、ボイラー及び機械	176,942	-1,174,006	-86.9%
392190200	プラスチック製のその他の板、シート、フィ	プラスチック及びその製品	710,301	-1,051,531	-59.7%
730900000	鉄鋼製の貯蔵タンクその他これに類する容器	鉄鋼製品	1,092	-1,010,826	-99.9%
901910000	機械療法用、マッサージ用又は心理学的適性	光学機器、写真用機器、映	259,980	-776,884	-74.9%
842839100	その他の持上げ用、荷扱い用、積込み用又は	原子炉、ボイラー及び機械	209,591	-612,081	-74.5%
920110000	ピアノ（自動ピアノを含む。）、ハーブシコ	楽器並びにその部分品及び	542,810	-401,651	-42.5%
291611000	不飽和環式モノカルボン酸及び環式モノカ	有機化学品	738	-354,504	-99.8%
950300000	三輪車、スクーター、足踏み式自動車その他	がん具、遊戯用具及び運動	493,474	-348,782	-41.4%
292149000	アミン官能化合物	有機化学品	9,750	-258,263	-96.4%
220600200	その他の発酵酒（例えば、りんご酒、梨酒、	飲料、アルコール及び食酢	268,786	-249,883	-48.2%
390769100	ポリアセタールその他のポリエーテル、エポ	プラスチック及びその製品	233,417	-232,905	-49.9%
390761100	ポリアセタールその他のポリエーテル、エポ	プラスチック及びその製品	155,140	-179,774	-53.7%
842720900	フォークリフトトラック及び持上げ用又は荷	原子炉、ボイラー及び機械	37,681	-176,928	-82.4%
730451900	鉄鋼製の管及び中空の形材（継目なしのもの	鉄鋼製品	67,460	-159,023	-70.2%

（注）資料1に同じ。

（出所）財務省「貿易統計」より第一生命経済研究所が作成。

○マスクや消毒剤、機械製品の対中部品輸出が急増

増加品目の動向をみると、「繊維製品のその他の製品」が前年比 1218.4%の増加（＝約 13 倍）。これは不織布マスクが含まれる項目だ。そのほか、「殺虫剤、殺鼠剤・・・」は消毒剤を含む項目であり、前年比+2447.9%（＝約 25 倍）。集積回路も前年比+3649.2%（＝約 37 倍）に増加。中国の生産活動停滞に伴い、感染防止のための製品や不足する工場部品などを日本からの調達でまかなう動きが強まったものと推定される。

○2月是中国の供給ショック。今後はグローバルな需要ショックヘシフトか

このように、2月の対中輸出は中国の生産減を日本からの調達でまかなう動きが生じたことで、その減少は軽微にとどまった模様だ。

しかし、本日公表された3月上旬の貿易統計では、輸出が前年比▲8.9%の減少、輸入は同+7.6%の増加となった。足元では、中国が生産活動を再開する一方、国内では、欧米等の需要減に端を発する自動車工場の生産停止の動きが出てきている。コロナショックは、2月は「中国の供給ショック」だったが、3月以降はグローバルレベルの需要側のショックへその性質が変化する可能性が高くなっている。

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

